

高圧ガス容器全国一斉特別回収運動について

高圧ガス容器全国一斉特別回収運動が10月に行われます。この運動は昭和62年に開始され、今回で29回目です。今年もJIMGAの他、高圧ガス保安協会・中央容器管理委員会、全国高圧ガス溶材組合連合会、日本ソーダ工業会、日本フルオロカーボン協会、日本肥料アンモニア協会の協力の下での実施となります。

平成27年度の回収結果

特別回収運動では、放置容器の他、停滞容器として納入後6カ月以上経過した使用済みの貸借容器や、所有者または内容物が不明で処分を依頼された容器を回収します。昨年の特別回収運動では、表1の通り1,528本の放置容器および不明容器が回収され、その内、不明容器は454本でした。平成20年以降、回収本数は年々減少してきていましたが、残念ながら昨年は増加しています。不明容器のガス種別の回収本数は、表2のとおりであり、酸素およびアセチレンの容器が合わせて6割を占める傾向は昨年までと同じです。さらに、不明容器の半数近くは消費者の容器置き場から回収されています。

放置容器の破裂事故

5月13日に長崎県の魚市場にて、長年放置されていた酸素の容器が破裂するという事故が発生しました。原因についてはまだ明らかになっていませんが、所有者不明の容器が10年間ほど現場に放置されていたと報道されています。

また8月12日には徳島県にて、適切な管理がなされていないと思われる容器への酸素ガス充填作業中に、容器が破裂するという事故も発生しました。いずれも負傷者



破裂容器 長崎県 (左) ・徳島県 (右)

が発生しており、一

歩間違えば更に重大な事故となっていた可能性があります。このような事故の発生を未然に防ぐためにも、全国一斉特別回収運動への皆様のご協力をお願い申し上げます。

(容器処理WG事務局 保坂 昭一)



平成28年度ポスター

表1 回収容器数の推移

	放置及び不明 (A)	不明のみ (B)	不明率 (B)/(A)
平成19年度	2,430	599	24.7%
平成20年度	3,779	907	24.0%
平成21年度	2,637	750	28.4%
平成22年度	1,806	513	28.4%
平成23年度	1,634	525	32.1%
平成24年度	1,778	522	29.4%
平成25年度	1,592	403	25.3%
平成26年度	1,394	387	27.8%
平成27年度	1,528	454	29.7%

表2 H27年度回収結果

ガス種	放置及び不明 (A)	不明のみ (B)	不明率 (B)/(A)	ガス種割合 (B)/(合計)
酸素	478	112	23.4%	24.7%
窒素	100	28	28.0%	6.2%
アセチレン	401	155	38.7%	34.1%
炭酸ガス	179	42	23.5%	9.3%
アンモニア	16	3	18.8%	0.7%
水素	14	5	35.7%	1.1%
ヘリウム	48	13	27.1%	2.9%
フルオロカーボン	78	41	52.6%	9.0%
塩素	5	5	100.0%	1.1%
アルゴン	71	6	8.5%	1.3%
特殊ガス	41	5	12.2%	1.1%
内容物不明	14	14	100.0%	3.1%
その他	83	25	30.1%	5.5%
合計	1,528	454	29.7%	100.0%

会員紹介 ー 広島日酸株式会社 ー

創業と沿革

当社は1970年（昭和45年）2月に広島市内（舟入）にて操業していた旧日本酸素株式会社広島充填所内に創設し、地元販売店と共同して主に酸素、窒素その他各種ガスの製造ならびに販売を始めました。

その後、道路拡張計画による立ち退きにより、近隣の旧日本酸素株式会社アセチレン工場（江波南）へ1984年（昭和59年）に移転し、事業の拡大を着実に進めてまいりましたが、設備および施設の老朽化や近隣居住環境の変化に伴い、2012年（平成24年）4月より現所在地（江波沖町）に移転・リニューアルし、更なる事業の拡大を目指しております。

最先端設備の導入

新工場は、敷地面積約13,000m²で各種ガス（酸素、窒素、アルゴン、炭酸ガス、混合ガス）の充填設備を有する中国地方最大級の「総合充填工場」です。特に医療用酸素や食添用炭酸ガスは品質強化を図るべく専用の充填設備としている他、吊り下げ式充填架台を導入するなど、作業効率と安全性の確保を重視した最新鋭の設備を備えております。

加えて、特殊材料ガス等を保管する容器置場を併設し、中四国地区の需要に応え、迅速かつ効率的に配送することはもとより、中部・関西地区と九州地区の間を橋渡しする中継基地として、物流上での重要な役割も担っております。

また、臨海地区に立地しているため、高潮対策としてポンプ等の設備の嵩上げ、電源喪失時の医療用酸素の充填機能の確保といった各種事業継続計画（BCP）対策を講じております。

更に最近業界全体で着実に採用が進められているRFタグシステムにおきましても、早くから事業所として積極的な導入を行い、運用状況の確認、改善を行いながら更なる容器管理、配送の効率化の実現を目指しております。



一般ガス充填棟（正面）

地域との共存共栄を目指して

当社は創業当初より現在の地区を中心に事業活動を行ってきており、従業員も代々に渡って多数の地元出身の方がおります。そのため地域活動を大切にし、江波漕伝馬（えばこぎてんま）保存会や衣羽神社などへの寄付を行い、行事にも参加しています。

また地元ソフトボール大会にも参戦して甲子園並みの熱戦を繰り広げております。このような活動を通じて、地元住民、地元企業との関係を深め、活気ある地域作りのお手伝いも行っております。



江波漕伝馬（宮島管弦祭より）

JIMGAとの関わりと今後について

現在、中国地域本部広島支部の会員として、日々の保安、安全活動の啓発と実行を行うことで、創業以来46年間無事故無災害記録を更新しております。これもJIMGAを始め関係団体からの保安、安全に関する情報提供や指導が的確に行われ、それを従業員一同で共有しているからこそ成し得た実績と理解しております。

昨年はJIMGA医療部門「安全賞」を受賞することができ、従業員一同と喜びを分かち合ったと同時に更に身が引き締まる思いであります。今後もこの荣誉に恥じない取り組みを率先して示すことで会員の模範となる企業を目指してまいります。



表彰集合写真
（前工場長：前列右から2番目）

（広島日酸株式会社 代表取締役社長 柳田 裕久）

第39回国際整合化委員会ロンドン会議および発行文書のご案内

第39回国際整合化委員会について

7月19日～20日の日程で、第39回国際整合化委員会（IHC）ロンドン会議がEIGA主催で開催されました。本IHC会議は、日本（JIMGA）、ヨーロッパ（EIGA）、アメリカ（CGA）にアジア（AIGA）を加えた産業ガス4協会が、保安技術上の重要な基準を共通化（国際整合化）し各地域の協会会員会社にその実施を推進すべく活動しております。日本はJIGA（当時）が設立された1999年からIHCに参画しています。

今回の会議ではまず、前回3月の東京会議から本ロンドン会議までの基準整合化活動の進捗を確認しました。新規基準9件（うちJIMGAは5件終了）、改訂基準21件（うちJIMGAは5件終了）が作業中であること、新規1件・改訂3件の計4基準が全協会が発行・終了されたことが確認されました。作業中の、JIMGAが主担当で対応した基準のうち「セレン化水素の取扱い指針」は発行手続き中で、「アルシン」「ホスフィン」は各協会での承認用の最終原稿作成待ちの状況です。

IOMAのグローバル委員会からの課題で、JIMGAとAIGAが共同で対応している特殊材料ガス関連図書のギャップ分析について、JIMGAは「6月16日に4協会担当者が参加したweb会議でCGAおよびEIGAのコメントを整理し『プロセス―ハザード対応表』の最終案をまとめて7月に4協会に配布したこと。10月19日に開催されますIOMAグローバル委員会会議前に再度4協会web会議を開催し、最終案の確定作業を行う予定であることを」を報告しました。

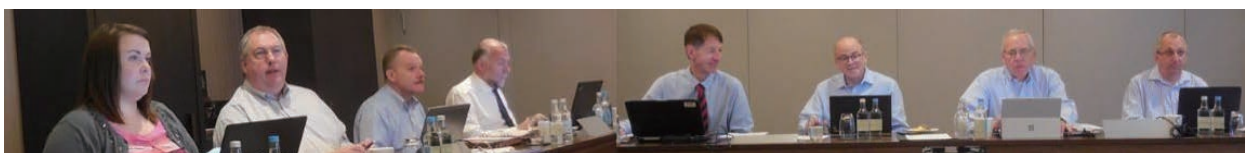
7月21日午前は第4回協会医療問題調整会議が開催されました。医療ガスに係る国際間地域差を認識し、問題の共有化を図るとともに、その連携方法に関して議論することを目的とした会議です。第2回会議からの懸案事項であるFDAからCGAへの要請事項について「CGAはPIC/S^{※1}のGMP^{※2}基準Annex 6に基づくFDA^{※3}の新法案とCGA会員の実施事項とのギャップ分析を実施中で、完成次第AIGA、EIGA、JIMGAに分析表を送付し、それぞれの地域の運用について調査依頼をする」との報告がありました。

次回第40回IHC会議は、AIGA主催で2017年2月28日～3月2日にバンコクで開催される予定です。

- ※1 PIC/S：医薬品査察協議会及び
医薬品査察協同スキーム
- ※2 GMP：医薬品及び医薬部外品の
製造管理及び品質管理の基準
- ※3 FDA：米国食品医薬品局



会議出席者との食事会の様子



第39回IHCロンドン会議の様子

国際整合化文書のご案内

今年3月以降に下記3件の参考文書をJIMGAウェブサイトに掲載いたしました。これらは、IHCメンバー4協会が国際整合化基準として発行した文書ですが、各協会の法規等の違いのため、内容は必ずしも日本の国内法に則ったものではありません。JIMGAの部会やWGで内容を精査し、国内法に準拠した内容に翻訳して会員の皆様にご紹介したほうが良いと判断した文書は、JIMGA基準として発行しています。

No.	書籍名	基準番号	発行年月
34	酸素分離用アルミニウム規則充填物の安全な使用	IHC-Doc/34/16	H28.4.1
35	亜酸化窒素(N ₂ O)の安全な貯蔵と取扱い指針	IHC-Doc/35/16	H28.4.1
36	硝酸アンモニウムを原料とする亜酸化窒素の安全な製造指針	IHC-Doc/36/16	H28.4.1

※閲覧には会員IDおよびパスワードが必要です。

詳細は下記リンク先をご参照ください。

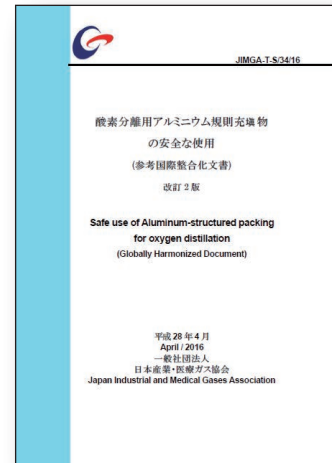
<http://www.jimga.or.jp/front/bin/cglist.phtml?Category=7074#list07>

翻訳して国内法に準拠した内容に修正したうえでJIMGA基準とすべきである、という協会会員の皆さまのご要望が多い場合は、JIMGA基準化を検討いたします。ぜひご意見・ご要望等を下記までお寄せください。

<問い合わせ先>

担当：国際部会事務局 仲山 一郎

E-MAIL inakayama@jimga.or.jp



(国際部会事務局 仲山 一郎)

「高圧ガスの安全基礎知識」をリニューアルしました!! - JIMGA e-ラーニング -

このたび、e-ラーニング「高圧ガスの安全基礎知識」を改訂し、JIMGAウェブサイトに掲載いたしました。

「高圧ガスの安全基礎知識」は平成22年に制作されましたが、その後の法改正などにより、内容の見直しが必要となったため、昨年9月より改訂作業を行っていたものです。その間、「高圧ガスの安全基礎知識（ダイジェスト版）」を提供させていただいておりましたが、今後は本編・ダイジェスト版、両方をご利用いただくことができます。皆様の積極的なご利用をお待ちしております。



したが、その後の法改正などにより、内容の見直しが必要となったため、昨年9月より改訂作業を行っていたものです。その間、「高圧ガスの安全基礎知識（ダイジェスト版）」を提供させていただいておりましたが、今後は本編・ダイジェスト版、両方をご利用いただくことができます。皆様の積極的なご利用をお待ちしております。